

2011年(平成23年)2月28日 月曜日

信濃毎日新聞

研究支援事業に信大の2件

科学技術振興機構（JST）と内閣府の総合科学技術会議が2月にそれぞれ発表した、新規の研究開発支援事業に、信大の2件が採択された。

JSTの「先端的低炭素化技術開発事業」に採択されたのは、信大織

維学部（上田市）の杉本涉准教授（工業物理化学）と工学部（長野市）の手嶋勝弥准教授（結晶工学）による「次世代ハイブリッドキャパシタに関する研究」。キャパシタは、従来の蓄電池やコンデンサより短時間で大容量の充放電ができる蓄電装置。

携帯電話に既に使われているほか、電気自動車などへの応用が期待されている。両准教授はエネルギー密度が従来の10倍を超す次世代キャパシタの開発を目指す。助成金は5年間で計1億5000万円。

総合科学技術会議の「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に採択されたのは、信大大学院医学系研究科（松本市）の新藤隆行教授によ

る「新しい血管統合機構に基づく、慢性臓器障害治療薬の開発」。血管などの細胞から分泌される物質アドレノメデュリン（AM）は、血管を作ったり構造を安定させる機能があり、それをRAMPというタンパク質が制御している。その働きを解明し、慢性臓器障害の新しい治療法を開発する。助成金は4年間で計約1億5000万円。